

昭和39年の誕生から毎年秋に開催してきた福岡市民芸術祭は、今年で60回の節目を迎えます。その記念すべき60回目のオープニングイベントとして、福岡音楽都市協議会とコラボレーションしたプレミアムライブを開催いたします。

夕暮れに染まる街並みと、アートに囲まれた空間で、人・自然・音楽が融合するオルタナティブな演奏に酔いしれるひととき。まさに市民芸術祭の開幕にふさわしいラインナップになっていますので、ぜひ文化の香り高い上質なステージをお楽しみください。

第60回福岡市民芸術祭プレミアムライブ

「黄昏に奏でるアート」

— 2023. 09. 16 (sat) —

16:00 START (入場無料) *事前申込不要

福岡アジア美術館7Fアートカフェにて

(福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル)



Rue de Valse



baobab



Rhythm Society

(九州大学軽音学部ジャズ研究会)



← 詳細情報はコチラから

Artist

baobab (バオバブ)

2004年結成。Maika (歌 / fiddle)、古楽器製作家でもある松本未来を中心としたアコースティックサウンドを奏でる兄妹ユニット。

二人の音楽的ルーツであるトラッド、古楽、フォークを自由なアレンジとスタイルで生み出している。

2007年の全20公演の海外ツアーを経て4枚のアルバムをリリース。

CM、映画への楽曲制作も行う。

これまでに数多くのミュージシャンとも共演を重ねる。

カテリーナの森で、森全体を自らデザインし、自然環境と人、音楽やアートと暮らしの融合をテーマにした音楽祭「Sing Bird Concert」を14年間主催してきた。

写真家・川内倫子とともに映像作品を制作。

2019年、baobab+haruka nakamura名義で「カナタ」を発表。

2022年5月、スコットランドツアーを敢行。

support / 和田尚也(base, gittern, whistle)



Rue de Valse (ルードバルス)

新井武人(アコーディオン・ボーカル)と平田知之(ギター)によるユニット。

軽快でチャーミングなアコーディオンの音色を軸にエスプリとウィットに富んだギターのメロディーとリズムでいつか夢みた憧れの街角へと空想旅行。

Rue de Valse とはフランス語で『ワルツ通り』の意味。

この世界のどこかにあるというこの通りからはいつも、

楽しいワルツのリズムによってやわらかな恋のメロディーが流れてくる。



Rhythm Society (九州大学軽音学部ジャズ研究会)

通称「九大ジャズ研」は、1964年の学内音楽系サークル3団体の合併により創設。今日に至るまでの約60年を通して、数多くの部員が福岡の地を舞台に精力的な活動を行い、また故・辛島文雄氏など、福岡や日本全国の各地で名を馳せた、優れたジャズ・ミュージシャン達を輩出。

ビッグバンド『Rhythm Society Jazz Orchestra(RSJO)』と少人数のバンドを中心として多くの部員が積極的に演奏活動を行っており、福岡市中央区で毎年開催している定期演奏会を始めとする様々なコンサートにて演奏を披露。

現在は福岡市西区の伊都キャンパスを主な拠点とし、今もなお活発に活動を続ける九州大学軽音楽部ジャズ研究会Rhythm Society。

これからも、福岡の豊かな音楽文化と密接に関わりながら、その歴史を紡いでいく。

- 当日はオープンスペースでの開催となります。座席数に限りがございます。
- 整理券の配布はございません。予めご了承ください。
- 小学生以下は保護者の同伴が必要です。

お問合せ

(公財) 福岡市文化芸術振興財団

TEL : 092-263-6265

(平日 9:30~17:00)



公式HP



公式Instagram



公式Twitter